私の尊敬する人

東中学校１年
水野　寧々

今、私は中学生だ。でも小学生の時から忘れられない人がいる。

小学校の６年間、毎日通った通学路。その途中の横断歩道には、毎朝「おはよう。」と笑顔で言ってくださったスクールガードの方がいた。５年間は私も普通に「おはようございます。」と言って通学していた。でも、６年生になって、スクールガードというものは、仕事ではなくボランティアである事を知った。そこで私は、「毎朝こんな事をするのは嫌じゃないんですか。」と思わず聞いてしまった。するとスクールガードさんは「これは私がやりたくてやっているの。みんなが安全に登校してほしいからね。」と言った。この時、私は何てすばらしい人なのだろうと思った。自分のためではなく、みんなの事を思うその美しい心。私は、そんなスクールガードさんの「おはよう。」がいつもより何倍も素敵な言葉に聞こえるようになった。

また、私はスクールガードの方への「感謝」の気持ちとして何かできることはないかと考えた。そこで、毎朝「いつもありがとうございます。」というお礼の気持ちを伝えた。他にも、班の子達が安全に登校できるよう、車が来ていないか左右確認したりした。大した事ではないけど、少しでもスクールガードさんに感謝の気持ちを伝えたかった。

しかし、時が立つにつれ、自分から誰かのために行動する事を「めんどくさい」と思うようになった。中学校で、ある草取りのボランティア活動があった。最初、私は参加するかどうかすごく迷った。でも、友達が「自由参加だし、やらなくても良いでしょ。」と言った。私もそれに共感し、結局参加しなかった。しかし、私が下校しようとした時、汗を滝のように流しながら一生懸命草取りをしている生徒を見かけた。その姿を見て、私はそのまま帰ることはできなかった。そして、「私にも手伝わせて下さい。」と言って、途中からだがその草取りに参加したのだった。草取りが終わった後には、みんなのまぶしい笑顔があふれ、私は嬉しさでいっぱいになった。「やって良かったな。」という思いだけが残った。草取りの参加を嫌がった自分が嫌になった。

「ボランティア」というものへの参加は自由で、参加したことで、何かがもらえるわけでもない。だけど、それによって助けられたり感謝している人は、きっとどこかにはいる。参加したことに、損をしたり、後悔することなんて何一つない。自分のその頑張りは、無駄になんてなっていない。このことを、しっかり心に響かせて、これからは積極的にボランティア活動に参加していきたい。そして、スクールガードさんのような、光り輝く美しい心を持てるよう、誰からも感謝されるよう、頑張っていきたい。